

武里地区地域づくり推進協議会

(2) 課題解決のための具体的な手法の検討について

答申書の作成に向けて

答申書の作成にあたりましては、中間発表の内容を基本にしながら、“見えてきた課題”と“目指す姿”を精査しながら、最終的なご意見を答申としてとりまとめてまいります。

ここではいただいたご意見を集約して、潜在的な住民ニーズを分析しながら、“目指す姿”にたどりつくためには、どのような手法が必要なのかを検討していきます。

住民ニーズの分析

1. 実戦的防災と地域コミュニティの強化
2. 多文化共生と相互理解
3. 次世代（若者・学生）の参画と役割転換
4. 情報発信のデジタル・シフト
5. 施設環境・アクセスの向上

1. 実戦的防災と地域コミュニティの強化

中間報告「市民センターのあり方：課題④」、「活動展開①」

「万が一」への備えを、より自分たちの現実に即したものにすることが必要がある

現状の課題	目指す姿・解決策	潜在的ニーズの分析
<ul style="list-style-type: none">● 従来の避難所訓練が形式的で、弱者（独居老人、車椅子利用者等）の救護が不透明。● 近隣住民同士の「顔の見える関係」が希薄。	<ul style="list-style-type: none">● 体力のある若者や働き盛りの世代を巻き込んだ、より実戦的な救護・設営訓練。● 平時のイベント（防災、公民館事業）を通じた「顔見知り」づくりを防災の基礎とする。	<p>いざという時、誰が自分を助けてくれるのか、誰を助ければよいのかという「具体的な繋がり」へのニーズ。</p>

2. 多文化共生と相互理解

中間報告「活動展開④」

外国籍住民の増加に対し、「共生」するための具体的な場が不足している

現状の課題	目指す姿・解決策	潜在的ニーズの分析
<ul style="list-style-type: none">● 外国籍住民との接点がなく、生活ルールの不徹底（ゴミ出し等）に対する不安や不満がある。● 言葉の壁があり、交流の第一歩が踏み出せない。	<ul style="list-style-type: none">● 料理、スポーツ、音楽など「言葉を介さなくても通じる」交流行事の開催。● 市役所の多言語対応スタッフと連携した、センターでの生活相談会の実施。● 外国人の保護者と地域の保護者が繋がる場の創出。	<p>不安の根源は「知らないこと」にある。互いの文化や人柄を知ること、トラブルを未然に防ぎたいというニーズ。</p>

3. 次世代（若者・学生）の参画と役割転換

中間報告「市民センターのあり方：課題④」、「活動展開② ③ ④」

「若者がいない」と嘆くのではなく、若者の「役割」を再定義する必要がある

現状の課題	目指す姿・解決策	潜在的ニーズの分析
<ul style="list-style-type: none">● 地域の担い手が固定化・高齢化し、若い世代の意見を反映する機会が少ない。● 若者を「イベントの客」としてしか見ていない。	<ul style="list-style-type: none">● 中高生・大学生を「支援される側」ではなく、ボランティアやリーダー等の「担い手」として登用。● 部活動単位での参画や、特技（スマホ、スポーツ、アート）を活かした講師役の依頼。	<p>活躍できる具体的な「出番」の創出がニーズとなっている。</p>

4. 情報発信のデジタル・シフト

中間報告「市民センターのあり方：課題②」、「活動展開⑤」

「情報は出している」という行政側と、「届いていない」という住民側の乖離がある

現状の課題	目指す姿・解決策	潜在的ニーズの分析
<ul style="list-style-type: none">● 紙媒体（公民館だより等）がマンネリ化しており、現役・若年層の目に触れない。● 「何をやっている場所か」という根本的な認知が不足している。	<ul style="list-style-type: none">● 市の公式 LINE や SNS を活用したプッシュ型通知の徹底。● 学校のメール配信システムを活用した保護者へのダイレクトな PR。● カラー化や、学生がデザインするポスター等、視覚訴求力の強化。	<p>大量の情報から、自分や家族にメリットのある情報を「探さずとも届く」仕組みが求められている。</p>

5. 施設環境・アクセスの向上

中間報告「市民センターのあり方：課題③」、「活動展開① ④」

武里地区特有の「広域性」と、施設の「老朽化・陳腐化」が大きな壁となっている

現状の課題	目指す姿・解決策	潜在的ニーズの分析
<ul style="list-style-type: none">● センターまでの物理的・心理的距離が遠い。● 施設内が「殺風景」「暗い」「ワクワクしない」ため、目的がないと入りにくい。● 壁紙の剥がれ等、メンテナンス不足が意欲を削ぐ。	<ul style="list-style-type: none">● 中高生（美術部等）の作品展示や壁画による空間デザインの刷新。● 学習スペースの照明改善やフリースペースの開放。● 大きな行事の際の送迎バス運行や、公共交通（春バス等）の利便性向上。	<p>単なる手続きの場所ではなく、長時間滞在したくなる快適さが求められている。</p>

まとめ：分析から見える「武里地区のニーズ」

【賑わいのニーズ】

「賑わい（キッチンカー、ダンス等）」を呼び水として、行政施設特有の「お堅い雰囲気」を打破し、多世代交流、異文化交流のハードルを下げたい

【可視化のニーズ】

施設の活動、災害時の体制、地域のニュースを「見える化」し、不透明さからくる不安を解消したい

【出番のニーズ】

学生や現役世代、外国籍住民など、多様な主体に「居場所（役割）」を持ってもらい、地域への帰属意識（自治会加入率）を高めたい

このニーズの分析から、「市民センターを、地域の情報の交差点であり、多世代の活躍の中心地とする」ことで、市民センターが求められている役割が見えてくると考える。